

フルーツ王国 信州須高へ



長野県

須高農業振興会議

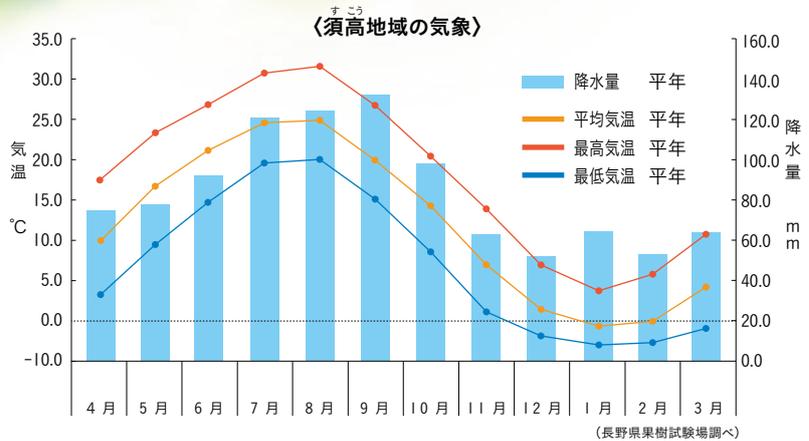
長野県・須坂市・小布施町・高山村・JAながの

日本のフル

信州須

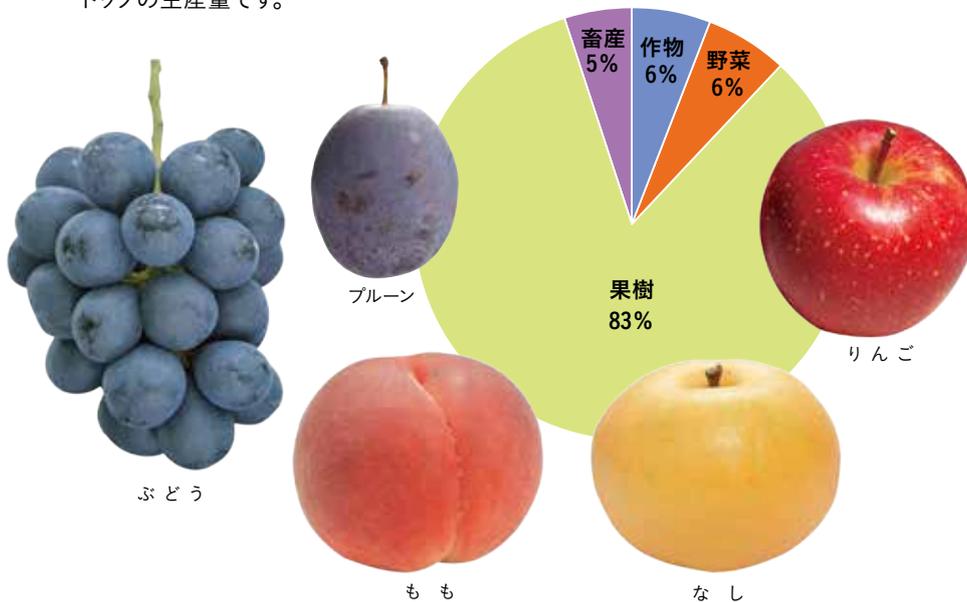
◎恵まれた気象条件

山々に囲まれた自然豊かな長野県須高地域(須坂市・小布施町・高山村)は県下有数の果樹産地です。須高地域の気象は、平均気温は10~11℃、最低気温はマイナス8~12℃、冬季の積雪は20~40cm、年間降水量は900mm前後と少なく豊富な日照時間と生育期間中の昼夜の温度差、更に水はけの良い土壌は美味しい果物栽培の最適地。適度な温度、降水量に日照時間と土壌と果樹栽培の条件が揃っています。



◎高い果樹生産力

農業生産額の約80%を果樹で占めています。りんご、ぶどうは長い歴史を持ち、時代とともに、ネクタリン、なし、プラム、プルーンなど多種多様な品目が栽培され、果樹の総合供給産地として市場、消費者から高い評価を受けています。特にぶどう(巨峰、ナガノパープル、シャインマスカット)、プルーンは県内トップの生産量です。



◎最先端の研究環境

須坂市には100有余年の歴史ある農業試験場、果樹試験場、須坂創成高校、農村工業研究所などの試験研究機関、教育機関があり、最新の試験研究成果を得ることができます。



長野県農業試験場、果樹試験場



長野県農村工業研究所

フルーツ王国

こう 高地域

須坂市

小布施町

高山村

◎須高の代表品種

フルーツ王国須高では、長野県果樹試験場で育成されたオリジナル品種が数多く栽培されています。その代表的なものとして、ぶどうの「ナガノパープル」「クイーンルージュ®」りんごの「シナノスイート」「シナノゴールド」プルーンの「サマークイーン」「オータムクイーン」などがあります。生産量はいずれも県内トップクラスです。



シナノリップ



なつっこ

長野県生まれのりんご三兄弟

「りんご三兄弟」は全国農業協同組合連合会の登録商標です。



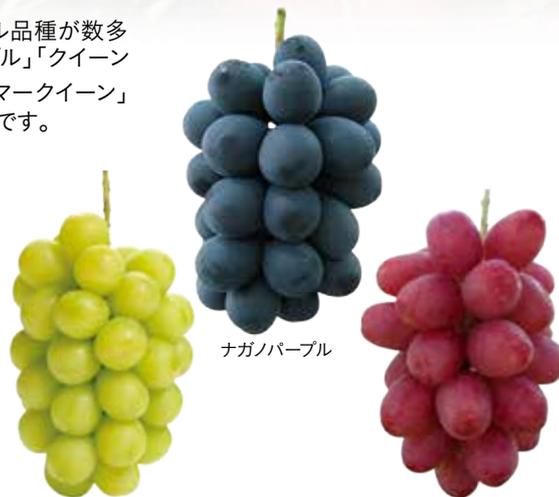
秋映（あきばえ）



シナノスイート



シナノゴールド



シャインマスカット

ナガノパープル

クイーンルージュ®

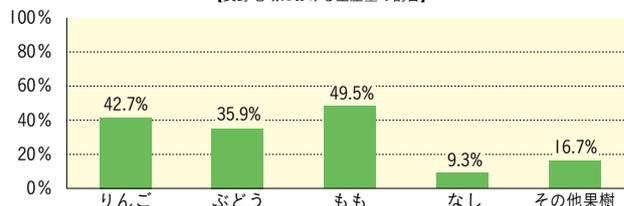
◎生産量は県下トップクラス

果樹栽培に適した須高地域（須坂市・小布施町・高山村）は、りんご、ぶどう、ももを中心に美味しい果物が多く栽培されています。特に長野地域（須高地域含む）のももの生産量、販売額は県下の約50%、りんごは約42%、ぶどうは約36%を占めています。

平成30年度 主要果樹の産出額

地域		りんご	ぶどう	もも	なし	その他果樹
県	生産量	142,200t	31,100t	13,200t	15,150t	15,519t
	生産額	275億	207億	44億	39億	32億
長野地域	生産量	60,694t	11,177t	6,535t	1,404t	2,593t
	対県(%)	42.7%	35.9%	49.5%	9.3%	16.7%
	生産額	115.9億	74.4億	20.4億	3.6億	5.3億
	対県(%)	42.1%	35.9%	46.4%	9.2%	16.6%

【長野地域における生産量の割合】



◎最新鋭の集出荷施設

JAながの須高フルーツセンターでは、最新鋭のフリートレーシステムを導入し、高品質化率の向上（打撲果等の軽減）と、光センサーによる糖度保証と蜜入り選果により、高付加価値販売・有利販売に努めています。



長野県 須高地域は こんなところ

須高地域とは、長野県の北部に位置し、須坂市、小布施町、高山村の1市1町1村で構成されています。

〈人口と世帯数〉 令和2年11月1日現在

	須坂市	小布施町	高山村
人口	50,345人	11,003人	6,866人
世帯	20,224戸	3,909戸	2,450戸

〈主な施設の数〉

	須坂市	小布施町	高山村
総合病院	2	1	0
個人医院・診療所	35	6	4
歯科医院	23	4	1
保育園・幼稚園	20	3	1
小学校	11	1	1
中学校	4	1	1
高等学校	3	0	0
ホームセンター	4	1	1
スーパー	8	1	1
温泉	4	2	8
コンビニ	21	3	2



峰の原高原 〈須坂市〉



スーパー 〈須坂市〉



信州医療センター 〈須坂市〉



米子大瀑布 〈須坂市〉



栗ヶ丘小学校 〈小布施町〉



フローラルガーデンおぶせ 〈小布施町〉



たかやま保育園 〈高山村〉



信州高山温泉郷 〈高山村〉



車
 東北・北関東方面
 東北自動車道
 北関東自動車道
 東京方面
 関越自動車道-藤岡JCT-上信越自動車道-上田菅平IC - R144 - 峰の原高原
 中央自動車道-岡谷JCT-長野道-更埴JCT-須坂長野東IC
 大阪・名古屋方面
 名神・中央自動車道
 金沢・新潟方面
 北陸自動車道・上越JCT-須坂長野東IC

鉄道
 東京方面
 東京 新幹線かがやき ●1時間22分
 大阪・名古屋方面
 名古屋 中央西線特急しなの ●3時間
 金沢方面
 金沢 新幹線かがやき ●1時間05分
 上越妙高 新幹線はくたか ●23分
 空路
 札幌・福岡各地 - 松本空港 - 松本
 バス又はJR

須坂市
 小布施町
 高山村

〈須高地域から約1時間でいける主な観光地〉



軽井沢



志賀高原



白馬八方尾根スキー場



野沢温泉



善光寺

©2020 善光寺

須坂市

農業と生活するのに ちょうどいい田舎 ^す ^ざ ^か 須坂

地域の特徴

須坂市は明治から昭和初期にかけては製糸の町として栄え、近年は機械・金属工業と全国有数のりんご・ぶどうなどのフルーツの産地です。峰の原高原、米子大瀑布、五味池破風高原などがあり豊かな自然に恵まれ、市街地には製糸業が盛んだったところを思わせる「蔵の町並み」、さくら名所100選、日本の名松100選に選ばれた「臥竜公園」もあります。

スーパーなどの買い物する場所や病院、教育機関も充実しており、生活しやすい環境です。

子育て支援・教育機関が充実



須坂創成高校

多くの優秀な農家を輩出した須坂創成高校(旧須坂園芸高校)をはじめ、市内に3つの県立高校(須坂高校、須坂東高校、須坂創成高校)があります。須坂創成高校は農・商・工、3学科を有する総合技術高校として、生徒が畑を耕し、食品の加工・販売まで実践することができます。



須坂高校



保育園

待機児童はゼロ。栽培活動や収穫体験を行い、いのちの大切さや食べ物に対する感謝の心を育てています。

豊かな自然が疲れを癒します



須坂市動物園

動物を間近で見ることができ、動物の解説やエサやり見学などを開催。カピバラやファンボルトペンギンなどが人気。



峰の原高原

冬は家族連れに人気のスキー場。春から夏にかけてはクロスカンтриーコース、テニス、ゴルフなど年間を通じて楽しめます。



国指定名勝 ^{よなこ} 米子瀑布群

根子岳と四阿山を源流に静寂な谷に流れ落ちる2つの滝(権現滝・不動滝)は日本の滝百選に選定された名瀑。

フルーツの産地の特徴

比較的早くから、フルーツの生産に力を入れ、先進的な技術や新しい品種などを積極的に取り入れてきました。ぶどうの産出額は全国5位を誇ります。



ナガノパープル

皮ごと食べられる甘いナガノパープルは須坂市産まれです。



ぶどう団地

見渡す限り、ぶどう畑が広がっています。



もも

千曲川沿い一体に、もも、ネクタリンの果樹園が広がります。

農業の取り組み

昔から育てている伝統野菜の支援をしながら、フルーツの産地の強みを活かし、新たな加工品を開発して販売しています。また、地元の野菜が並ぶ直売所は、農業の盛んな地域ならではの新鮮さです。



グリーンツーリズム

須坂グリーンツーリズム事務局(須坂市農林課)では修学旅行などの農業体験の受け入れを行っています。



◎村山早生ごぼう

伝統野菜

「村山早生ごぼう」「八町きゅうり」「沼目越瓜」は古くから地元で愛されているオリジナル野菜です。市内の飲食店の材料にも使用されています。



◎八町きゅうり



◎沼目越瓜



フルーツエール

須坂産のりんご、ぶどう、もも、カシスの果汁を使用したクラフトビールを開発しました。



観光農園

りんごやぶどうの摘み取りが行われ、新鮮なフルーツを食べることができます。



直売所

地元の新鮮な野菜やフルーツが並びます。スーパーにも、地元農産物が並ぶコーナーがあります。



お問い合わせ先 須坂市役所農林課農政係

TEL 026-248-9004 FAX 026-246-5667

E-mail : s-nourin@city.suzaka.nagano.jp

小布施町

歴史と文化と花の町 おぶせ

地域の特徴

千曲川など3つの川と雁田山に囲まれた自然豊かな小布施町。町役場を中心に、半径2kmの円にほとんどの集落が入る小さな町で、昼夜の寒暖差と扇状地からなる肥沃な大地ではおいしい果樹が育まれ、水はけのよい酸性土壌では特産の栗が生産されています。

江戸時代には今も安市に面影を残す定期的な六斎市が立ち、北信濃の経済・文化の中心として栄えました。幕末の葛飾北斎や小林一茶、近年では中島千波など多くの文人墨客により花を咲かせた「地域文化」は、今も「交流」という名のもとに脈々と受け継がれています。

年間120万人の観光客からのニーズ

人口約11,000人に対し、年間約120万人ものお客様が来訪しています。葛飾北斎が残した肉筆画や街並みが人気です。



栗の小径

名産の栗の木で作成したブロックを一面に敷き詰め、栗の木の感触が足に優しい通りです。



©2020 岩松院

岩松院（葛飾北斎筆『八方睨み 鳳凰図』）

本堂内の大間、21畳の大きさの極彩色の天井絵。江戸末期の嘉永元年（1848）北斎89歳の作品です。



北斎館

町内に遺されている北斎作品の散逸を防ぎ、収蔵・公開するための美術館として建設されました。



桜並木（千曲川堤防）

上信越自動車道と並行する全長約4km、約600本の八重桜の並木です。

チャレンジする気質を生かし様々なスポーツが盛ん

老若男女を問わずスポーツが盛んです。

特にスラックラインは、国内で唯一のワールドカップ開催地です。



小布施QUEST

エアーマットを利用したスノーボード、スキージャンプ練習施設です。



スラックライン

細いベルト状のラインの上で、バランスやトリックを楽しむ競技です。



OBUSE OPEN OASIS

スポーツを通して様々な年代が交流し、価値を共有することで認め合うきっかけを目指して開設。ボルダリングやスタジオを併設しています。



小布施見にマラソン

海の日近くに開催される、速さを競うだけでなく小布施を見て楽しみながら走るハーフの見に(ミニ)マラソンです。

多彩な交流とそれを生かした農業支援

古くから人やものの交流が盛んで、外から訪れる人を歓迎し、受け入れる町民気質があります。また、それらを生かして農業を支援しています。常設直売所や季節直売所も多数あり、地域の皆さんや観光客が利用しています。



安市
毎年、1月14・15日に開催されています。無病息災・五穀豊穡を祈願する行者の火渡りには、大勢の見物客が訪れます。



六歳市(収穫祭)
名前は江戸初期、毎月3と8の付く日計6回開かれていたことに由来。現在は収穫祭や他地域との交流の場として開催されています。



オープンガーデン
個人が育てた庭園約130軒が参加。来訪者への歓迎の気持ちを表しています。



農作物直売所
地元で育てた露地物の野菜や果物を中心に提供する直売所。収穫期には、町内のいたるところで開設されています。

自然の中での子育て

就学前の親子を対象に、交流の輪を広げ楽しく子育てができる場であるエンゼルランドセンターをはじめ、3つの町立幼保育園や放課後の遊び場・居場所としての子ども教室など、多彩なメニューで子育てを支援します。



わかば保育園

町立保育園が2か所、幼稚園が1か所あり、子どもたちの元気な声が響いています。



エンゼルランドセンター

主に未満児を抱える親子が一緒に利用する施設で、子ども・親同士の交流の場となっています。



子ども教室

一般と活動の2コースがあり、活動コースは野菜作り・スポーツ・調理等の活動を週2回程度行われています。



田植え体験

毎年、小学校5年生が体験しています。秋には収穫体験も行われています。

お問い合わせ先 小布施町役場産業振興課農業振興係

TEL 026-214-9104 FAX 026-247-3113

E-mail : sangyou@town.obuse.nagano.jp

高山村

自然と共に生きる 農の里 たかやま

地域の特徴

年間の降水量が少なく、昼夜の寒暖の差が大きく、西傾斜の地形で日照に恵まれた高山村は、古くから果樹栽培を中心とした農業が盛んなことで知られています。中でも「りんご」は村を代表する特産物としてブランド化が図られ、市場等から高い評価をいただいています。

また、日本のユネスコエコパークに登録されている自然と人が一緒に暮らす地域づくりのなかで、環境保全型農業による安全・安心な農作物や温泉など様々な資源を活かした「アンチエイジングの里づくり」に取り組んでいます。



水中のしだれ桜

樹齢200年を超える桜の大樹が点在し、訪ねる人々の心を魅了します。



松川溪谷温泉

開湯210年の「山田温泉」をはじめ、松川の溪流沿いにある8つの温泉が心と体を癒します。



YAMABOKU
ワイルドスノーパーク

全長13kmの日本一の超ロングツアーコースは、変化する周囲の自然を満喫できます。



秋の松川溪谷

松川のV字溪谷を黄金の輝きが埋め尽くし、その中に燃え立つ紅葉が一際鮮やかです。

ICT (情報通信技術) を活用したスマート農業の促進

高山村では、地域資源を活かした魅力ある産業創出を目指し、ICTを活用した最先端農業技術の研究を進めています。気象観測システムや栽培記録アプリケーションから収集したデータの利活用や生産技術向上に資する講習会を実施しています。



気象観測機器

村内8ヶ所に設置

人と自然にやさしい農業

農業を基幹産業とする高山村は、いち早く環境保全型農業に取り組んできた全国有数の先進地です。

はじめは、昭和57年。村内の家庭や旅館等から出る生ゴミなどを発酵させて良質な堆肥をつくり農地に還元する取り組みでした。現在は「フクイハラコンボ」として年間約600tが村内の農家に提供されています。

平成3年からは、人工フェロモンを利用した果樹の減農薬栽培や、水稻の無農薬栽培等にも取り組むなどして、人と自然にやさしい高山村の農業が評価され、平成16年度第10回全国環境保全型農業推進コンクールで高山村が農林水産大臣賞を受賞しました。



農産物の特徴と取り組み



りんご

減農薬栽培の「信州高山さわやかりんご」は市場から高い評価を受けています。



ぶどう

人気のシャインマスカットやナガノパープル等、ぶどう栽培が盛んです。



醸造用ぶどう

世界に認められるワイン産地を目指して、醸造用ぶどう栽培に取り組んでいます。

古くからりんご、ぶどうを中心とした果樹産地として知られている高山村ですが、村特有の気候や土壌条件が醸造用ぶどう栽培に適していることから、近年は醸造用ぶどう栽培が注目されています。現在では約60haのほ場で醸造用ぶどうが栽培されています。



ワイナリー

平成23年にワイン特区の認定を受けて、5軒のワイナリーが誕生しました。

お問い合わせ先 高山村役場産業振興課農政係

TEL 026-214-9268 FAX 026-248-0066

E-mail : sangyou@vill.takayama.nagano.jp

就農・独立までのステップ

就農先の検討

- ◇ ネットや書籍での情報収集
- ◇ 就農候補市町村との相談問い合わせ
- ◇ 就農フェア等への参加
- ◇ 就農先への訪問
- ◇ 各市町村で就農体験

就農コース決定

新規就農里親
研修制度
コース

農業大学校
入学コース

農業法人
就職コース

書類審査と面接

- ◇ 履歴書、家族の同意書
レポートを提出
- ◇ 面接
- ◇ おためし研修
- ◇ 里親の紹介

- ◇ 実践経営者コース
(松代 2年間)
- ◇ 果樹実科・研究科
(須坂 1~2年間)

実践研修

- ◇ 住居の紹介(民間アパート)
- ◇ 研修計画の作成
- ◇ 里親研修(2年間)
- ◇ 就農計画の作成
- ◇ 農業次世代人材投資事業(準備型)

独立・新規就農

- ◇ 農地の準備(市・町・村・JAが支援)
※農地バンクの活用、利用権設定の手続きなど
- ◇ 機械・施設の準備(市・町・村・JAが支援)
- ◇ 青年等就農計画の認定
- ◇ 資金の調達(青年等就農資金等)

支援の継続

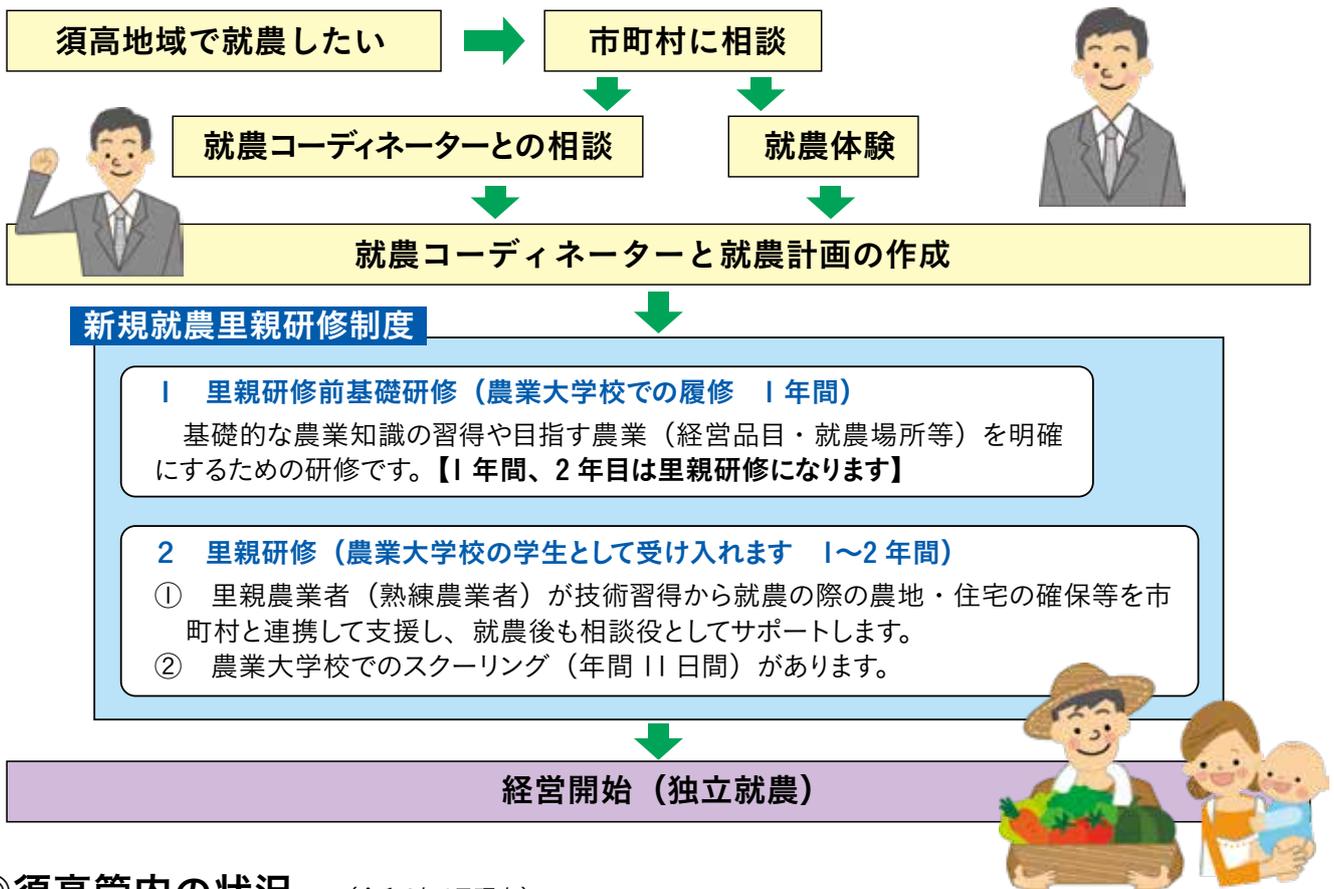
- ◇ 農業次世代人材投資事業(経営開始型)
- ◇ 各種研修会・講座の受講
- ◇ 技術の支援(JA・支援センター・里親の技術指導)
- ◇ 仲間づくり(須高農業青年クラブ・JAながの須高青年部 等)

新規就農里親研修制度

◎新規就農里親研修制度とは

長野県では、平成15年度から新規就農希望者を受け入れ、独立就農を積極的に支援したいと考えている熟練農業者の方を「里親（農業者）」として登録しています。独立就農を目指す新規就農希望の方に研修先（里親）を紹介する「新規就農里親制度」に取り組んでいます。

須高地域でも、この里親制度を使い多くの新規就農者が誕生しています。



◎須高管内の状況 (令和2年4月現在)

市町村名	里親登録農業者数	里親研修生数	令和2年就農者	平成25年～令和元年就農者数(里親)
須坂市	20人	7人	6人	87人(20)
小布施町	22人	3人	2人	22人(12)
高山村	16人	5人	5人	27人(7)
計	58人	15人	13人	136人(39)

◎就農コーディネーターの連絡先

長野農業農村支援センター 地域第一係

〒380-0836 長野市大字南長野字南県町 686-1 TEL 026-234-9515 FAX 026-235-8393

Mail : nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

体験を語る ～須坂市編～



里子の明日の笑顔を見て

太田 安雄 おおた やすお さん 72歳

里親農家

家族 妻 長男夫婦 孫1人
出身地 長野県須坂市
就農 農業大学校果樹実科卒業後20歳で就農。就農当時はりんご栽培24歳の時にぶどう栽培に転換。ぶどう栽培歴48年の大ベテラン。
経営概要 ハウスぶどう40a(3棟)、シャインマスカット、露地ぶどう100a(シャインマスカット40a、クイーンニーナ30a、無核巨峰15a、その他15a)、りんご40a(ふじ20a、シナノリップ10a、シナノゴールド10a)、ブルーン10a、その他20a 2013年(平成25年)から研修生を受け入れこれまで3名が独立しぶどうを栽培。現在1名が研修中



農業生産額の80%を果樹で占め、ぶどう生産は県内トップの生産量を誇る須高地域。特にシャインマスカットは栽培面積・生産量ともに全国トップクラスの須坂市。そこで日本で一番早いシャインマスカットを出荷している里親の太田さんを訪ねた。

平成23年里親農業者となり、平成25年4月、農業の経験が全くない研修生を初めて受入れた。スコップの使い方もわからない、農機具のチョークを黒板に書くチョークと勘違いされるなど「自分の常識は通用しない」どうやって教えればいいのか悩んだという。悩みながらも、しばらく研修生と接していると、次第に教えるのではなく、作業のやり方等を実演し、失敗してもいい

から作業を実践し、身体で技術を覚えてもらうと考え気持ち的にも楽になった。また、研修生との接し方も特別扱せず、家族と同じ扱いで接している。また、ミスなく営農でき、早く農家として立ち立って欲しい思いから、今までやった自分の成功した話はせず、むしろ価値ある失敗した話をしよう心掛けている。

他にも心がけていることがある。研修生に視野を広げてもらう研修だ。自分のぶどうだけ見ていると勉強にならない、多くの生産者がこだわって栽培したぶどうを見ることも重要だと考えている。ぶどうの収穫が始まると、JAの共選所の手伝いをあえてやってもらっている。房型、粒の大きさ、着色、箱詰め等学んでもらい観察力を高めてもらっている。

もう一つは、早く地域に溶け込むための、仲間づくりのバックアップだ。研修生は、県外者がほとんどで地元知人や親戚、友人が少ないので、地域の会合や寄り合いに連れていき名前と顔を覚えてもらうことにしている。

里親として、今、大変なことは、2年間の研修修了後直ぐに営農できるための農地を確保することだ。太田さんは、アンテナ

を高く張り農地情報を入手している。友人、知人や会議等で情報を仕入れ、条件の良い農地が出たら、自分の名前で農地を一時的に借り苗木を植え、研修終了後にすぐに収入が得られるようにしている。研修生は安心して2年間研修を受けることができる環境にある。

太田さんは、就農当時はりんごを栽培していたが、りんごの価格が低迷していた。持ち前のアンテナで情報収集しいち早くぶどうに転換した。そして、平成5年から平成12年にかけて融資を受け、ハウスを3棟建設した。

と言うことで、太田さんは、ハウスを3棟所有していることから、普通は年1回しか作業ができないが、太田さんの研修生は、露地を含めると年間4回の作業を学ぶことができる。1年で4年間分の研修したことになる。当然ながら他の研修生より早く技術習得ができぶどう栽培をスタートできるのである。これまでに、3名の研修生を育て上げ、3人ともぶどう農家として地域の若手リーダーとして活躍している。

最後に、研修生へのメッセージを頂いた。農業は自然相手だから大変。だけど、おもしろく、楽しく仕事ができ、ちょっぴり刺激のある農業をして儲かる農業経営を実践し、いつかは自分を追い越して素晴らしい農業者になって欲しいと語ってくれた。



▲研修生へ熱心な指導

ぶどう栽培を通じて、食べる人の笑顔をつくる

中井 竜佑 なかい りゅうすけ さん 40歳

新規就農者

家族 妻 子2人
出身地 大阪府岸和田市
就農 2年間の里親研修後、2018年(平成30年)新規就農
経営概要 ぶどう130a(シャインマスカット60a、巨峰20a、ナガノパープル30a、クイーンルージュ®20a)、栗15a



「ぶどう畑で働いている自分を夢見ていたんです」という中井さん、まっすぐ見据えた目は、就農を決意した日から今も同じ信念を持つ。

実家のある関西で短大を卒業後、飲料会社で販売・営業の仕事をしながら奥さんに日々話してきたのは、農産物を作る生活だった。「長女が生まれて、安心安全なものを食べさせたいと強く思った」という中井さんは、「ぶどう栽培を通じて、食べる人の笑顔をつくる」1冊の本と出会ったことをきっかけに、ぶどう栽培をする目標が明確になった。

ぶどうと言えば、岡山と長野。それぞれの産地の自治体などに直接電話をかけた。役所の担当者の対応は様々で、丁寧に対応してくれた長野県の数か所にしぼる。パンフレットを郵送してくれ、「現地を見てほしい」という担当職員の対応が的確で、その後の就農体験、支援制度の紹介などで須坂市での就農の決め手となった。

2年間の里親制度による研修後、その職員には新規就農に必要な農地の確保、資金など、親身に相談に応じてもらった。またその時期、須坂市は新規就農を促進するため里親制度を開始して数年が経過しており、先輩就農者から、技術面、生活面などのアドバイスをもらったことが本当に助かったという。

様々な果樹栽培で生計を立てている農家も多い中、「単作（ぶどう）がいい」という中井さんにその理由を聞く。「2つ3つやると集中できない。手をかけたい時期にかけられない」という。りんごやブルーベリーなどと作業時期が重なる部分があり、どちらかを優先するとどうしても中途半端になるというのだ。そこは、当初から「ぶどうを作りたい」とはじめての初心を貫き、納得できるものを消費者に届けるためさらに上の品質を目指すという高い目標がある。



▲ぶどうにこだわり、さらに上の品質を目指す

新規就農3年目の今年、インスタグラムを通じて知り合った東京の販売会社や通販サイトなど販売ルートが拡大した。ぶどうの苗が成長する数年先には、多品種を揃えた直売所を立ち上げ、ぶどう狩りなどの観光農園も視野に入れている。

減農薬栽培にも挑戦して、「子どもに食べさせたいものをつくる」ために、一歩ずつ前に進んでいる。



ぶどうの摘粒作業を慣れた手つきで行う。研修1年目とは思えない雰囲気の中井さんに就農に至るまでの経過や今の想いを聞いた。

高校卒業までは長野市で過ごし、地元の果物を当たり前のように食べていた。しかし、大学進学とともに長野県を離れて、他の地域の果物を食べる機会が増えたことで、長野県産の果物の豊富さ、品質の高さを感じた。「当たり前」ではなく、美味しい果物を食べられることは恵まれていたということと、果物で幸せを届けられる農業のすばらしさに気づかされた。

また、農業者が高齢化していることや遊休農地が増えているなど、心配なニュースをよく耳にするようになった。「このままでは、地元の重要な産業が衰退してしまう」という危機感が芽生え、大学卒業後、農業の世界に飛び込もうと考えた。しかし、実家は農家でもなく、まわりにも農業を行っている知り合いがいなかったため、情報が乏しかった。どのように始めて良いかもわからなかった。同時に、独立に必要なお金もなかったため、農業関係の職に就くことで自分が農家に向いているのかしっかり考えることにした。

仕事をしながら、約3年間にわたり就農相談会や就農体験に何度も参加した。農業関係の仕事とはいえ、自分で実際に就農することと外から農家を見ているのとでは全然違うと思い、自分で納得のいくまで、作業を体験し、

果物がある当たり前前の生活を守りたい

山岸 靖典 やまぎし やすのり さん 31歳

里親制度研修者

家族 妻 子1人
出身地 長野県長野市
就農 2020年(令和2年)4月 研修開始

農家の話を聞きたかったためだ。りんごやぶどうの体験を繰り返し、農家や行政の担当者と話中で、自分の中で目指す農業の形がイメージできるようになってきた。

いくつか市町村を見た中で、須坂市での就農を決めたのは、ぶどうをはじめ、りんごやももなど多品目な果物が栽培されていること、新品種導入などに積極的であること、そして、何より体験した農家が栽培技術向上のために日々、取り組んでいると感じられたためだ。目指す農業の形が実現できる気がしている。

また、子育てをするなら自然環境が豊かでのびのびと過ごせる場所でありたいと思っていたので、子どもが生まれたことで農業を始める絶好のタイミングと思い、就農への一歩を踏み出した。作業に追われる日々になるが、自分の作業効率を上げ、家族と過ごせる時間も大切にしたいと思っている。

研修は始まったばかりだが、細かい作業は自分に合っていると思っている。日に日に、実が大きくなっていくのが何よりも楽しみで、自分がかかわった作業によって、どのような実になり、収穫できるかが待ち遠しい。

同時に、夢と現実はやはり違うものだという事も感じている。ぶどう、りんご、もも、いろいろな品種に取り組みたいと考えてい

たが、研修しているぶどうだけでも、品種の特性を覚え、作業についていくのも必死だ。ただ、目指してきた農業はあきらめたくない。若いうちに苦労しながらでも、いろいろなことに挑戦していきたい。

現在の研修先の里親農家は、非農家出身で里親研修を経て就農し、里親になった方で、境遇が似ている。農地を借りられるのか、自分自身で作業をすべてできるのかなど、心配なことは多いが、近くに悩み事を相談し、共感して頂ける方がいるのは非常に心強い。まだ先の話だがいつかは自分も里親となってこの地域の農業を盛り上げたいと少し感じるようになった。

研修先の周りには、同じような新規就農者や若い農業者もいて、地域の農業を支えている。担い手不足と言われる農業の世界では珍しいと思う。そのような地域の魅力を改めて感じている。

▼細かい作業は自分に合っている



体験を語る ～小布施町編～



小布施で農業を目指す人を応援したい！

関谷 尚志 せきや ひさし さん 56歳

里親農家

家族 妻 子2人 両親
 出身地 長野県小布施町
 就農 長野県農業大学校、果樹試験場果樹研究科を卒業後、アメリカのワシントン州にてりんごを主体に2年間農業研修。帰国後、実家で農業に取り組む。
 経営概要 もも30a、ぶどう60a、りんご160a
 2013年(平成25年)から2名の研修生を受け入れる。



「里親と研修生がうまくマッチすれば、市町村や里親農家にもこれほどいい事業はない。これからもこの事業を続けてみんなで地域農業を守り発展させていけたら素晴らしい」。関谷さんは2018年度(平成30年)、須高地区農業委員会協議会総会の研修会にて、里親制度の体験をプレゼンし、最後にこう締めくくった。

はじめの研修生は、神奈川県から一家4人でやってきた。2年間の研修後、就農し、いまは地域活動にも積極的に参加し、小布施の暮らしにすっかり溶け込んでいる。次に受け入れた研修生は、県内出身だが東京で就職後、小布施でのぶどう栽培を志し、同じく2年の研修後独立したところである。

いう気持ちがあふれている。今は就農に際し、ぶどう棚などの初期投資と、そして倉庫や物置などの農家に必要なスペース確保が課題と考えている。これまで研修に来た若者たちは、技術の習得や理解に個人差は当然あるものの、みな熱心で、一緒に過ごしていて苦にならず、関谷家の皆さんも全くストレスにならなかったようだ。



▲自分の個性を生かし、リーダーになることを期待

貴重な2年間の里親研修期間で、1年目、2年目の指導のメニューを変えて、短期でなるべく知識や技術が身につくよう工夫してきた。夢と希望を抱いて町にやってくる若者たちに、1年目はまず実践重視、技術を教えながらも、がむしゃらに仕事をさせる。併せて、JAの部会や果樹研究会といった生産者組織の講習会に連れ出し、紹介して顔売る。こうして地域の大勢の農業者の中で認知され、少しずつ知り合いができていく。同時に将来の計画を考えはじめ、苗木の準備をし始める。

2年目はせん定、摘果、消毒作業など一通りの仕事を任せてみる。果樹園の開園のため、苗木や幼木の移植の経験もなるべくさせる。そして、独立後に必要な農地をみつけ、よい農地の園地の確保を支援する。地元での人脈や情報がものをいう、里親にとっては大事な仕事だ。

毎日顔を合わせる日々の中で、ゼロから出発の研修生に対し、農機具や軽トラの心配から販売のアドバイス、農業簿記や経理、経営分析についてまで、精一杯全力で教えたいと

研修は関谷さんにとっても、とても有意義で得るものの多い体験という。若い人たちの考えは大いに刺激になり、情報収集ができ、一緒に勉強して伸びていきたくなるようだ。また会話が増えて、それが楽しみになっていて、まだまだ若い人には負けられないという力が湧いてくるという。

見た目クールな印象の関谷さん、ここまで情熱をもって研修生を預かるため、2年間経つうちにはお互い損得を考えない間柄となり、貴重な絆ができてきた。

さらに、新規就農の皆さんには、自分の個性を生かした営農を確立し、将来は町の農業のリーダーになってくれることを強く期待している。

小布施町には、新規就農者同士の交流の場があり、気軽に悩みを相談したり情報交換をしている。また農家の皆さんとの交流も積極的に行われている。町としても、住まいや倉庫、農地等の支援をはじめやる気ある就農者をバックアップする体制が心強い。

自然に左右される、そこがおもしろい

立澤 郷史 たちさわ さとし さん 46歳

新規就農者

家族 妻 子2人
 出身地 栃木県栃木市
 就農 里親研修を経て、2016年(平成28年)新規就農
 経営概要 ぶどう45a(シャインマスカット、ナガノパープル、巨峰)
 りんご10a(ふじ、シナノゴールド)



「石橋をたたいても渡らない性格なので…」群馬県から全く身寄りのなかった小布施町

で就農したきっかけを伺った第一声。小布施町とのつながりができたのは7年前。以

前は高校卒業後、自動車部品を製造する会社で働きながら、冬はスノーボードを楽しむ

む生活だった。たまたまスノボードスクールの校長が農業をしており、それを手伝う中で興味を持ったという。野菜作りは楽しいが独立就農するにはハードルが高いと感じ、自然の中で働く方法を考えているとき、ネット検索で目に飛び込んできたのが長野県小布施町の新規就農のページだった。

早速、体験研修に申し込み審査に合格した時に知り合ったのが、その後の運命を決める「里親」となるOさんとの出会いだった。立澤さんは、その時持っていた就農に対する不安をOさんにぶつけたが、すべての確に答えてもらったことを今でも忘れない。①まったく知り合いもなく土地勘もない者が移住してきて就農するのにいい土地を借りることができるのか。②農家でもなく、十分な資金もないところから始められるのか。③将来にわたって安定した収入が得られるのか。

当時「里親」制度が始まって間もないころ、Oさんが立澤さんの不安に応えたのは、①2年間の「里親」研修後の新規就農時の

土地借用の面倒を責任をもって見ること ②最初の2年間の「里親」研修、その後5年間の新規就農者への生活支援、技術支援制度など、国や自治体などの制度が利用できること。③ぶどうを中心とした果樹栽培が収入面で安定が見込めること、など就農を決意するには十分説得力のあるものだった。

もう一つの原動力は、少し照れながら「背中を押してくれた」と。移住前から農業に関心を持ちいつかは大自然の中でのびのび農業をやって生活したいという夫の夢の後押ししたのは、一番近くにいてささえてくれていた奥さんだった。

果樹づくりは、手をかけただけ応えてくれるところが一番楽しい、という立澤さん。将来の希望を聞くと、今はJAへの出荷が主だが、よりいいものを自信をもってできるようになったら、直売も増やしていきたいと将来を描いている。農作物は自然相手



▲果樹は手をかけただけ応えてくれる

で毎年の変化に対応しなくてはいけないが、自分の技術はまだまだ。より技術を磨いて、たいへんお世話になっている里親さんのように、将来農業を目指す若者にお返しができるようになりたいという。

やわらかい笑顔から、まさに地についた生き方と頼もしさを感じる事ができた。



お客様に美味しい果物を直接お渡ししたい

三浦 秀規 みうら ひでき さん 41歳

里親制度研修者

家族 妻 子2人
 出身地 愛知県幸田町
 研修 2018年(平成30年)9月、銀座NAGANOで開催された就農フェアで小布施町の担当者との出会い、約1年半の検討期間を経て2020年(令和2年)からぶどうとりんごの研修に入り1年目

全ての花が、実が収穫を迎えることができるわけではない。厳選に厳選を重ねた結果、最も良い果実だけが心を込め栽培され、収穫を迎えることができる。その厳選作業は「摘花」、もしくは「摘果」と呼ばれる。

4月から里親研修を始め約2か月が経過した6月下旬。三浦さんは研修ほ場でりんごの栽培作業の一つ「摘果」に汗を流していた。その手を止めていただき里親研修を始めるまでの経緯を伺った。

それまで印刷機関係のエンジニアとして働いていた三浦さんが、「自分で作った物を自分で売ることができるような職に就きたい」と転職を志してから農業研修を始めるまで、約4年半の月日を費やした。何を作ろうか、売ろうかと検討を始め、思い立ったのが農業だった。自分が手塩にかけて育てた農作物を手に取り味わい、喜ぶお客様の顔が見たい。農業の中でも果物を選ぶのに時間はかからなかった。

当時、都会で働いていた三浦さんが就農先を決める時に重視したのは生活環境。自然が好きで自然の中で子育てしたいと平日頃考えていたことから、長野への移住、長野での就農を選択した。奥様も就農には大賛成。実は奥様は結婚前、北海道の農業生

産法人で畜産に携わっていたことがあるからだ。

就農を志した三浦さんはまず、長野県内の果樹の農業生産法人で2年半、果樹栽培の基礎に携わった。その中で就農や農業研修を始めるには、自己資金が足りないことを感じエンジニアとして復帰。独立するための資金を蓄えることにした。その間、就農先と移住先、栽培品目について2年をかけ検討。栽培面、販売面等様々な面を考慮し、栽培品目はぶどうとりんごを中心とすることに決定した。これは価格面や貯蔵性を考慮し、営農上の可能性を大いに感じたためだ。

就農地は小布施町に。果樹の一大産地であるということと何よりも農業体験を通じて触れ合った里親農家さんたちなど小布施の人の熱意を感じたからだ。その時口にしたぶどうの味にも感動し驚いた。他にも就農体験の日程を自由に設定できることも決め手の一つになった。

充実した研修の日々を送っている三浦さんは、里親農家

さんと家族ぐるみの関係を築いている。休日に、お子さんが里親農家さんのお宅へ遊びに行くこともしばしばあるという。良い関係が伺える。

まず、美味しい果物を作れるように研修をし、生活を成り立たせることが目の前の課題。いずれは、お客様一人一人にしっかりと向き合い美味しい果物を直接お渡ししたい、喜んでいただきたい。三浦さんの大きな目標に向けた初めの一歩は、しっかりと確実に踏み出された。いずれ大きな果実を実らせるために。

▼喜んでもらえる果実を作りたい



体験を語る ～高山村編～



農家として食べていくことを伝え、就農に向け、集落との信頼関係をつなぐ

涌井 一秋 わくい かずあき さん 59歳

里親農家

- ◎家族 妻 子3人 孫3人
- ◎出身地 長野県高山村
- ◎就農 2006年(平成18年)、地元の会社で働きながらワインぶどうの栽培を開始。2008年(平成20年)、会社を退職し、本格的に農業を開始。
- ◎経営概要 ワインぶどう11ha、ワイナリーも経営。りんご15a、プラム10a

畑の様子も写真も撮りながら…と取材を依頼し、当日訪れた畑は、「ここが最初の畑だった」と涌井さんのワインぶどう発祥の地という45aのぶどう畑だった。「今年で15年目か…」と感慨深く話す涌井さんの表情は明るい。現在は11haまで拡大したが、うち9割ほどは荒廃農地を借り受け、整備を進めたものだという。

里親になったのは、ワインぶどうの普及を考えた際、個人で作れる面積は高が知れていることから、地域全体で盛り上げることが重要という考えからであった。涌井さんの就農当時は農業を始めても生産基盤や仕組みが整っておらず、1～2年でリタイヤしてしまう人も多かった。そんな苦い経験から、里

親を引き受けることで、地域全体で仲間づくりやワインぶどうの栽培拡大を目指せないか。涌井さんをはじめとした村の生産者や行政などの努力により、村内のワインぶどう総面積は現在60haを越え、県内トップクラスの栽培面積を誇っている。

これまでに研修生を県外から3人、村内や定年帰農で4人受け入れた。研修生は自分の意思を持って臨んでおり、大変うれしかったという。だが、研修を進めていく中で研修生自身が管理方法や品種などについてこだわりを言及することがあった。研修に入る方は家族を持つ方もいる。農業を生業に、経営として成り立たせることが第一のため、メインとなる主力品種をきちんと作る経営の基盤づくりが大事なことを涌井さんは説いた。ぶどうがあって、はじめてワイナリーができていく。「一丁前なぶどうができないと、一丁前なワインはできない」という言葉が印象的だった。

作業においては、誰でも一律にできるようにと、前職で作業手順書を作成していた経験を生かし、ワインぶどう用のものを試行錯誤しながら作成した。研修生はもちろん、パートさんに配布し、何のための作業かを教える。目的の分からないまま作業を行っては意味がないため、それを記載して作業の理解と高品質のぶどうづくりを伝える。さらに、昨年県で行ったフランス人講師の剪定講習会の考



え方を積極的に取り入れるなど、樹にとってより良いものを日々チャレンジしている。農地の確保も里親の重要な役割である。涌井さんは農地を探すほか、集落の人たちに声をかけ、集落全体で研修生をかわいがってもらえるように取り組んでいた。「その土地でずっと作る以上、その土地の方に顔を売ることが大事」。周囲に理解してもらえるか否かで就農後に大きく響くといい、配慮や信頼関係の構築は重要だ。

就農にあたっては自己資金の少ない人も多い。涌井さんは、行政への働きかけを積極的に行い、ワインぶどうの補助制度の整備にも尽力した。さらに、出荷量を大きくまとめて、金額的に有利な契約とするため、「信州高山ワインぶどう出荷組合」を立ち上げ、村のワインぶどうの生産や流通のしくみづくりを進めた。

時折厳しい言葉で話す様子もあり、里親としての顔を垣間見ることができた。何より、高山村のワインぶどうの生産を盛り上げようとする大変な熱意と、現在は区長として活躍されるだけの厚い信頼を感じた。

高山村では、涌井さんをはじめ地域で信頼の厚い熱意のある農家のもとで実習のほか、農業の生の話を聞くことができる就農体験を実施している。これまでの研修生も多くが体験したうえで研修をスタートしたことから、農業を始める重要なステップになっている。



▲より良い研修のため日々チャレンジしている

見守ってくれる人がいることが本当に心強い!

林 勇作 はやし ゆうさく さん 45歳

新規就農者

- ◎家族 妻 子1人
- ◎出身地 鹿児島県鹿児島市
- ◎就農 長野県農業大学校を経て、2017年(平成29年)就農
- ◎経営概要 ぶどう90a(シャインマスカット、巨峰、ピオーネ、ナガノパール、クイーンニーナ、クイーンルージュ®)、りんご50a(ふじ、シナノスイート、シナノゴールド、秋映、シナノドルチェ)、ペビーキウイ10a、米10a他



インタビューのために訪ねたのは、勾配のある古い農家の一角にあるおしゃれな事務所。大きい窓は、長野市内の平地とその先にある北アルプスを望む見晴らしのいい風景が一望できる。就農を志し、林さんの話を聞くため訪れた人誰もがこの風景に感動し、あこがれを抱くという。

出身地の鹿児島市からミュージシャンを目指し上京したという林さんは、専門学校を卒業後、都内の大手物流企業に就職。営業職、管理職として十数年勤めた。元々アウトドア派で、北アルプスの登山や自転車など行動力のある林さんは、自然にあこがれ、田舎暮らしを望んでいたという。就農のきっかけは、都内でブースを出展した須坂市・小布施町の就農フェアに参加したこと。就農体験は、思い描いていた農業での暮らし、生活設計を考える上で十分な材料となった。

それからの行動は早かった。長野市にある農業大学校に入学、在学中に高山村の担当者

に紹介を受け、農地の借用、さらに給付金などの制度を活用して住居の確保など持ち前の行動力が強みになった。

就農4年目、2020年4月により安定した生活をめざして会社を設立した林さんとの話は、果樹栽培を軸とした農業経営の戦略を進めている事業者という感じを受ける。シャインマスカットを中心としたぶどう、りんごにベビーキウイなど多品種を栽培しつつ、通販会社と連携して約半分を通販で売りさばく。地元醸造会社に委託してのシールド製造・販売も着実に歩みを踏み出し、来年には独自サイトを立ち上げ、販売に力を入れるという。

「困っていることはない、経営が面白くなっている」という林さん。苦労したことより先を見越す、物流企業の会社員時代に培ったマネジメント力が生かされている。情熱のある農業経営を目指す就農者が、村や周辺の支援者に支えられることで着実な



▲奥さんの支えは、農業経営の原動力になっている

歩みを進めることは、農産物や観光資源が豊富なこの地域にとって大きな財産にもなる。

将来は、「都会の人に魅力を感じてもらえる素晴らしいロケーションを生かし、オーナー制の観光農園を開いたり、かつてのミュージシャンの知り合いを招きたい」と将来への展望は確実に見えている。



りんごの美味しさと人々の温かさに惹かれて

小山 真吾 こやま しんご さん 34歳

里親制度研修者

- ◎家族 妻 子1人
- ◎出身地 東京都町田市
- ◎研修 2018年(平成30年)から就農相談会や長野県内の就農体験に参加。高山村の体験には4回参加し、2020年(令和2年)4月から里親農家の下でりんご、ぶどうで研修開始。1年目。

りんご畑で出迎えてくれた小山さんは、摘果作業が一段落して、もう少しすると仕上げ摘果の時期を迎えると言う。この春からりんごとぶどうで研修を始めたばかりだが、ここに至るまでの経緯を伺った。

子供の頃から理科と自然が好きだったという小山さんは、東京で生まれ育ち大学院まで都会で過ごした。専攻は応用化学で分析化学や環境分析を学び、得意分野を生かせる仕事として化学薬品メーカーに就職した。研究開発部門での仕事は楽しかったが、分析作業は屋内で行うため次第に外で働きたいという気持ちが強くなっていった。奥さんとは大阪勤務時代に自然が好きということで意気投合し、結婚した。その後、埼玉へ転勤となったが「自然の多い環境で暮らしたい」と夫婦で考えるようになった。移住するなら自然豊かで山があるところがいい!ということで長野県への移住を考え、りんごやぶどうが美味しい地域での就農を検討した。須高地域や東御市など長野県内で就農体験を重ね、高山村での就農を決意した。小山さん曰く「ここに決めた一番の理由はりんごを食べて美味しい!と思ったこと。それと体験に参加して、受入れ農家さんなど出会う人がとても温かく皆いい人ばかりと感じたから」と話してくれた。

研修科目はりんご・ぶどうで、研修1年目の今年は里親さんの園地で果樹栽培の1年

のサイクル(どの時期にどんな作業が必要か等)を中心に栽培方法を学んでいる。農作業は淡々と同じ作業を繰り返すことが多く根気のいる仕事だが、「そんな作業が好き。自分には向いていると思います」と小山さん。中でもぶどうの摘粒は房づくりにダイレクトに影響するため集中力が大事だという。単純作業に見えても一つ一つ房の形が異なり完成形をイメージしながらの作業は観察力と想像力、手先の器用さやスピードも求められる。身近にいる先輩農業者の背中を見ながら「手を抜かず、しっかりこまめにやるのが大切だ」といつも感じている。

プライベートでは今年6月に第1子である娘が生まれた。「サラリーマンを続けていたら子どもと一緒にいられる時間があまりなかったが、今は一緒に過ごせる時間が長く良かった。独立就農後も自然豊かなこの場所で農業をやりながら家族と一緒に過ごせる時間を大切にしていきたい」と笑顔がこぼれた。また、地域活動では地元の消防団に入団し、地球クラブ(青年の農業者団体)で知り合った先輩就農者と話をする機会が増えた。田舎で生きていくには横との繋がりは必須だ。地域に溶け込み積極的に社会活動に参加することは、これから農業をやっていくには重要なことで自分のためにもなる。「この地域で一緒に頑張っていこう!」先輩就農者からの言葉が励みになった。

将来は夫婦で就農し、二人三脚で頑張っていきたい。そして、美味しいりんごやぶどうを作り、多くの人に知ってもらい手に取って食べてほしい。自分たちがりんごの美味しさに感動したように……。軌道に乗ってきたら果物の収穫など農作業体験の受入れもしたいと考えている。それは以前の会社の同僚から「自分の子供にも農業体験させたいから、就農したらぜひ呼んでね」と言われたことがきっかけ。まずは知人から始め、多くの人に農業の楽しさやりんごやぶどうの美味しさを知ってほしい。そんな目標に向かって、一步一步前を歩み始めている。

▼「夫婦で就農を目指す」と語る小山さん



就農・独立までの技術支援

須高^{すこう}地域では、研修中から就農・独立までの期間、栽培・経営技術習得をサポートするため里親による研修だけでなく、各種研修会やJAの部会による講習会などでもサポートします。

◎須高果樹セミナー[必須]

時 期	項 目	内 容
4月上旬	果樹の基礎知識	オリエンテーション りんご・ぶどうの1年間の作業管理
4月下旬	農業の基礎知識 農業機械の操作	農業の基礎知識と使い方 SS、乗用草刈機、刈り払い機等の基本的な操作方法
5月上旬	りんごの管理	摘花・摘果
5月下旬	ぶどうの管理	房切り
6月上旬	ぶどうの管理	摘房・摘粒・着果管理
8月下旬	果樹試験場視察	果樹の新品種、研究成果等 (※土壌分析用サンプルの提出：希望者)
9月中旬	りんごの管理	着色管理(葉摘み・玉回し)
10月下旬	土壌と施肥の基礎知識	土づくりと施肥、土壌診断結果
12月下旬	ぶどうの管理	整枝・せん定、ぶどう棚の管理
1月下旬	りんごの管理	りんご、ももの整枝剪定
2月中旬	果樹の病虫害防除 修了式	防除暦に基づく病虫害防除のポイント、修了式

◎複式農業簿記基礎講座[必須]

練習問題を行いながら複式簿記の基礎を学びます。

時 期	項 目	内 容
11月上旬	複式農業簿記の概略と概要	複式農業簿記って？ 1年間の作業内容と書類 仕訳帳から元帳への転記のルール 資産の調べ方と勘定科目 仕分のルール 仕訳帳・元帳の書き方
11月中旬	複式農業簿記の実践	期首貸借対照表・開始仕分 合計残高試算表の作成方法 精算表の作成方法 棚卸資産の記帳ルール 決算整理 帳簿の締切り
11月中旬	パソコンによる複式農業簿記 の演習	期首貸借対照表の作成 仕訳帳の入力 仕訳帳から元帳への転記など 経営分析
下旬		
11月上旬		
中旬		

◎須高野菜(アスパラガス)セミナー

時 期	項 目	内 容
4月下旬	開講式、生理生態、定植	開講式・オリエンテーション、生理生態、苗の定植、 1年目の管理
5月下旬	夏期管理、立茎管理	防除、倒伏防止の管理、刈り込み
8月中旬	優良事例の視察	先進的農家視察、参加者の園地巡回
10月下旬	冬期管理	地上部刈り取り、刈り取り後のほ場管理
2月下旬	翌年の管理、促成栽培、修了式	ハウス管理(温度、水等)、収穫打ち切り、初期管理、修了式

市町村の農業支援制度

須坂市

須坂市農林課農政係

TEL 026-248-9004 FAX 026-246-5667 ✉ s-nourin@city.suzaka.nagano.jp

主な支援	対象者	支援内容
新規就農研修給付金	1. 国の農業次世代人材投資資金(準備型)受給者	最長2年間 15,000円/月
	2. 55歳未満で住居を必要とする研修生(1の方を除く)	最長2年間 100,000円/月
	3. 1,2以外で55歳未満の研修生(例:農家子弟など)	最長2年間 20,000円/月
農業機械購入補助	認定新規就農者(農家子弟を除く)	就農時に必要な機械・器具の購入費の2分の1を補助(上限200,000円)
樹園地貸付事業補助金	65歳未満の認定新規就農者や認定農業者でJAの果樹園のリース事業を利用する者	2分の1(上限10a当り400,000円)
遊休農地解消対策事業	遊休農地を借りる、または買って、遊休農地を解消する者	果樹の場合 10a当り80,000円 果樹以外の場合 10a当り40,000円
新規就農者用作業場	就農8年目までの者(農家子弟を除く)	市内3カ所に作業場を設置 新規就農者へ貸出
農業サポートセンター		労力が必要な場合に、農業者へサポーターを紹介
農地バンク		空いている農地の紹介

小布施町

小布施町産業振興課農業振興係

TEL 026-214-9104 FAX 026-247-3113 ✉ sangyou@town.obuse.nagano.jp

主な支援	対象者	支援内容
農地賃借料補助	農業次世代人材投資資金(経営開始型)受給者	補助率50%、上限100,000円/年
住宅費補助	農業次世代人材投資資金受給者の内、町外出身者	補助率66%、上限40,000円/月
物産展等出店費補助	50歳以下	補助率100%、上限100,000円/年
農産物直売所の貸し出し	幸作会会員の内、就農して8年以内の方	町営駐車場に隣接した直売スペースを貸し出し
ふるさと納税特産品への農作物提供(販売)	幸作会会員の内、就農して8年以内の方	ふるさと納税の返礼品として、農作物を町が買い取る
共同利用倉庫の貸し出し	農業次世代人材投資資金(経営開始型)受給者	利用料:1,000円/月
新規就農者用住宅の貸し出し	農業次世代人材投資資金(準備型)受給者の内、町外出身者	家賃 単身用:18,000円 世帯用:30,000円
農地バンク		貸したい人(農地)と借りたい人の橋渡し
縁結びの会		農家さんとお手伝いさんの橋渡し

高山村

高山村産業振興課農政係

TEL 026-214-9268 FAX 026-248-0066 ✉ sangyou@vill.takayama.nagano.jp

主な支援	対象者	支援内容
研修費助成	先進的経営体での研修を受ける概ね55歳未満の者	月20,000円以内(2年限度)
農業機械等賃借料助成	JA又はリース会社等と賃貸借の契約を締結した者	年賃借料の2/3上限200,000円(3年限度)
農地賃借料助成	3年以上の利用権設定者	年85,000円以内(5年限度)
住居費助成	賃貸住宅に居住する者	月10,000円以内(5年限度)
新規就農者住宅(全5棟)	45歳未満で同居する配偶者がいる者	木造2階建倉庫付 家賃月25,000円
転入経費助成	研修を継続し就農する者	家財運搬経費の1/2以内

JA ながの須高ブロックの支援プログラム

農業を始める人

応援します JAながの須高営農センター

◎ JA ながのの紹介

JAながのは、JAちくま・JA須高・JA志賀高原・JAながの・JA北信州みゆきの5つのJAが合併し、2016年9月1日、新しくスタートいたしました。

新生「JAながの」は、【農】（安全・安心・新鮮な大地からの恵み＝農畜産物）をたくさんの方の食卓に届けることと、地域に暮らすみなさまの【暮らし】を総合JAのサービス（事業活動）でサポートすることを目的としています。

地域の【農】と【暮らし】をこれからも「ずっと支える」とともに「もっと役立つ」パートナーとして信頼され、必要とされるよう活動に取り組んでまいります。

◎ JA ながの須高ブロックの紹介

【須高とは】

「須高」とは須坂市と上高井郡の総称です。須坂市の「須」と上高井郡の「高」で「須高(すこう)」と呼びます。

須高ブロックは、果実の販売に特化した地域であり、令和元年度の販売高は約75億円ですが、その内果実の販売高は約64億円です。さらに、ぶどうにおいては、巨峰をはじめナガノパープル、シャインマスカットなど、数量・販売金額は県内トップクラスです。

また、農薬の安全使用の推進、生産工程管理（GAP）の導入、栽培履歴の点検、残留農薬の自主点検を実施し、「安全・安心・おいしい果実生産」と「環境にやさしい農業」を基本に、生産と販売に取り組んでいます。

JAながのが目指す3+1の取り組み

- 1 営農指導の強化**
広域専門指導と消費者・実需者ニーズに即した営農指導
- 2 販売事業の強化**
重点市場対応と直販をミックスした手取り向上への取り組み
- 3 資材コストの抑制**
予約仕入結集と交渉力強化による取り組み

+
安心して暮らせる地域社会づくり

フルーツハリウッド須高



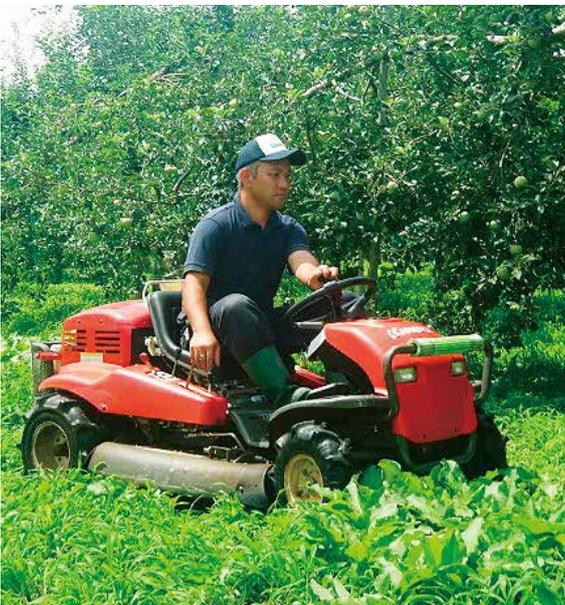
フルーツハリウッドはJAながのの登録商標です

◎JAながの須高ブロック生産者組織の概要(令和元年度実績)

品目	組織数	部会員数	担当技術員数	品目	組織数	部会員数	担当技術員数
りんご	4	984	11	アスパラ	1	42	2
ぶどう	4	937		きゅうり	1	22	
もも	3	258		きのこ	1	9	1
なし	2	58		花き	1	51	
振興果樹	6	409		畜産酪農	1	21	(1)

◎JAながの須高ブロック農業開発事業の紹介(令和2年度版抜粋)

事業名	事業内容	品目	備考	補助率
果樹生産維持対策事業	果樹苗木助成	JAが振興する品種	20本以上(ぶどうは10本以上)	20%以内
	果樹棚助成		資材費のみ	10%以内
アスパラ生産力向上対策事業	種苗費助成		3アール以上	50%以内
花卉振興品目導入事業	種苗費助成	ライラック・シャクヤク	3アール以上	30%以内
ハウス設置事業	施設費助成		資材費のみ	10%以内
かん水施設設置事業	施設費助成		資材費のみ	10%以内
長期販売施設設置事業	冷蔵庫設置費助成			10%以内
ぶどう安定生産対策事業	簡易雨よけ施設助成		資材費のみ	10%以内



◎JAながの須高ブロックレンタル農機具の紹介(令和2年度抜粋)

資材・機械名	規格	利用料金	備考
バックホー	クボタ 2.5t	1日 12,375 円 半日 7,425 円	燃料借主負担
	クボタ 0.8t	1日 9,900 円 半日 6,187 円	
背負動噴	丸山	1日 1,650 円	
刈払機		1日 8,250 円	
薪割り機		1日 9,900 円	
剪定枝粉碎機	共立	1日 11,000 円 半日 6,600 円	



【お問い合わせ先】

JAながの須高営農センター営農課

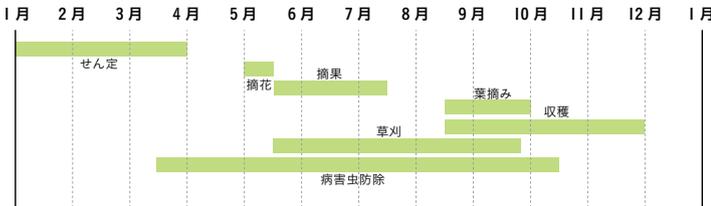
TEL 026-245-0153 FAX 026-245-1003

E-mail : sko-enc@ngn.nn-ja.or.jp

主な作物の年間作業と経営の目安

りんご

摘花、摘果等の作業にあまり追われることがない品目です。普通樹はせん定に高度な技術が必要です。一方、新しい化高密植栽培などはせん定に高度な技術を必要としませんが、多くの枝を誘引する等細かな作業が必要です。

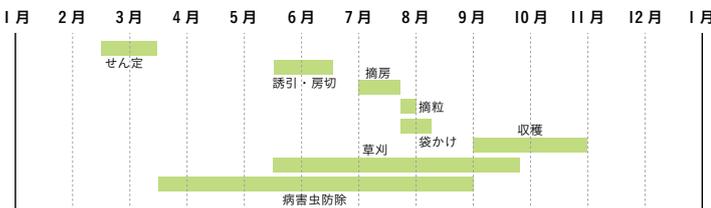


品 種	出荷数量：kg	収入金：円	生産費：円	所 得：円
シナノリップ	3,800	874,000	400,500	473,500
秋 映	4,000	752,000	409,000	343,000
シナノスイート	4,000	812,000	414,000	398,000
シナノゴールド	4,000	700,000	396,000	304,000
ふじ（普通樹）	4,000	788,000	454,000	334,000
ふじ（高密植栽培）	4,000	880,000	392,000	488,000

※出荷数量 10 アール当りの数量です

ぶどう

房切、摘粒など適期作業が求められる品目です。栽培がマニュアル化されている短梢せん定は初心者でも栽培が容易ですが樹勢コントロールが難しいです。一方、長梢せん定は樹勢コントロール容易ですが新梢管理が大変です。



品 種	出荷数量：kg	収入金：円	生産費：円	所 得：円
種なし巨峰	1,600	1,440,000	624,500	815,500
ナガノパープル	1,400	1,820,000	562,000	1,258,000
シャインマスカット	1,600	2,080,000	562,000	1,518,000
ピ オ ー ネ	1,800	1,440,000	615,000	825,000

※出荷数量 10 アール当りの数量です

もも ネクタリン

開園コストがあまりかからず、植え付けてから成園になるまでの期間が短く、夏にお金が入る価格が安定している品目です。春の摘蕾、摘果と収穫作業に労力を必要とします。



〈もも〉

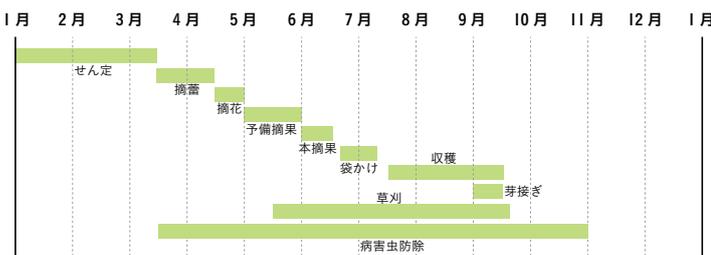
品 種	出荷数量：kg	収入金：円	生産費：円	所 得：円
あ かつ き	2,500	875,000	487,600	387,400
な つ っ こ	2,500	925,000	487,600	437,400
川 中 島 白 桃	3,000	1,050,000	487,600	562,400

※出荷数量 10 アール当りの数量です

〈ネクタリン〉

品 種	出荷数量：kg	収入金：円	生産費：円	所 得：円
倉島ネクタリン	2,500	875,000	487,500	387,500
フレーバートップ	2,500	900,000	487,500	412,500
サマークリстал	2,500	950,000	487,500	462,500

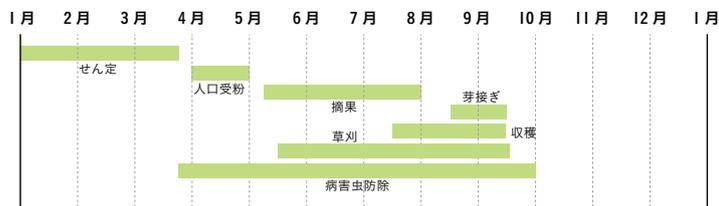
※出荷数量 10 アール当りの数量です



主な作物の年間作業と経営の目安

プルーン

生産量が全国一位の品目です。他の果樹に比べ省力的な品目ですが害虫対策や収穫作業に労力を必要とします。

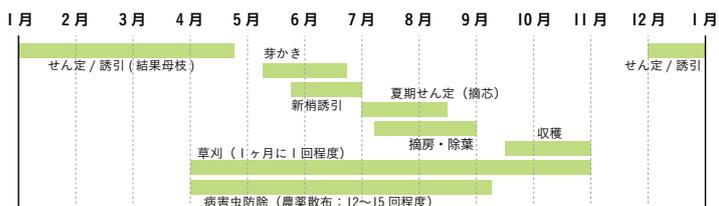


品 種	出荷数量：kg	収入金：円	生産費：円	所 得：円
アーリーリバー	1,800	790,200	298,000	492,200
トレジディー	1,800	705,600	298,000	407,600
くらしま早生	1,800	770,400	298,000	472,400
グランドプライス	1,800	783,000	298,000	485,000
スコウプルーン	1,800	783,000	298,000	485,000

※出荷数量 10 アール当りの数量です

醸造用ぶどう

生食用ぶどうに比べ栽培管理は容易な品目ですが販売単価が安いいため、数haの栽培面積が必要です。また他の果樹のように成園を借りることは困難で初期投資と準備が必要です。植え付けから2年間は収益がありません。

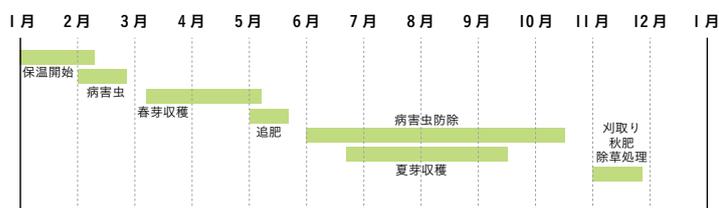


品 種	出荷数量：kg	収入金：円	生産費：円	所 得：円
シャルドネ	1,000	300,000	79,800	220,200
メルロー	1,000	300,000	79,800	220,200

※出荷数量 10 アール当りの数量です

アスパラガス

4月から収穫でき春先の換金作物で果樹との複合品目に適しています。植え付けから収穫までにやや時間を必要とします。収穫後の管理、病害虫防除が重要です。



品 種	出荷数量：kg	収入金：円	生産費：円	所 得：円
春どり	450	517,500	170,000	347,500
半促成長期どり	1,000	1,200,000	376,000	824,000

※出荷数量 10 アール当りの数量です

土地の面積単位について

〈参考〉
東京ドームは約4.7ヘクタール、ディズニー（ランド+シー）は約100ヘクタール

1 坪		約1.8m	約1.8m	約3.31㎡(2畳)
1 畝	30坪	10m	10m	約100㎡(99.2㎡)
1 反=10畝	300坪	約32m	約32m	約1,000㎡(992㎡)
1 町=10反	3,000坪	100m	100m	約10,000㎡(9917㎡)

果樹に必要な農業機械

果樹は他の作物に比べ機械化が進んでいないため、10a当りの労働時間が長く手作業での仕事が多い品目です。

省力・軽労化・園地整備などに必要なスピードスプレーヤー（通称：SS）、乗用草刈機、高所作業車、ミニバックホーについて紹介します。

撮影協力：長野県果樹試験場



1 スピードスプレーヤー

果樹を栽培する上で絶対必要な機械です。樹園地を走行しながら薬剤散布する機械で、搭載されたタンク内に（500ℓ～1,000ℓ）薬剤を入れ、後方にある複数のノズルで薬液を噴霧し、大型な送風機で薬剤を拡散します。農薬散布だけではなく水の運搬にも利用できます。一番高価な機械ですが、果樹農家ではほぼ一家に一台を所有しています。

2 高所作業車

りんごなどの高木の果樹の手入れや収穫に便利な機械です。クローラ（カタピラ）式の本体に支えられたゴンドラに乗って作業します。ゴンドラは上下・左右に動き、360度旋回するタイプもあります。収穫作業だけなら2倍、摘花、摘果作業では、約70日かかったものが50日に短縮された事例があります。



3 乗用草刈機

果樹栽培ではスピードスプレーヤーと同じく絶対必要な機械です。ゴーカートのような感覚で機械が自走します。刃はムキ出しではないので、刈払機と比べると安全性は高い機械です。

整備された果樹園の平坦な場所で利用しますが、極端な傾斜地や狭く障害物の多いところでは利用できません。

4 ミニバックホー

りんご、ぶどう、もも等の改植、暗渠や水路の整備、耕作放棄地の復田、堆肥の切り返しや運搬など、農作業で活躍する場面の多い機械です。

また長芋、ゴボウなどの収穫にも利用が可能です。運転には「車両系建設機械運転技能講習」を受講し資格取得が必要です。



須高地区で取り組んでいる新しい農業技術

須高地区には長野県農業試験場、果樹試験場、JAグループの農村工業研究所、長野県立須坂創成高校等農業研究・教育機関があり新しい技術が開発されています。現在普及している新技術について紹介します。

撮影協力：長野県果樹試験場ほか



1 新わい化栽培（高密植）

栽植密度（300～350本/10a）を上げて、早期から収穫可能で高収量で高収益が得られます。樹体がコンパクトなため、機械化しやすく作業性の向上が図られる栽培方法です。また、樹形が単純であるため整枝、せん定などでは高度な技術を要しないので誰でも取り組むことができます。

2 ぶどう短梢せん定栽培

長梢せん定に比べせん定が単純で、技術の習熟、経験をあまり必要としません。果房管理、新梢管理が直線的で画一化されているので、作業がしやすく、作業時間・労力の省力化が図られるせん定方法です。新梢の樹勢が均一化されるため、開花時期、果実品質がそろいやすい点がある一方で、せん定による樹勢コントロールが難しく、新梢管理に労力がかかる欠点もあります。



3 すもも平棚栽培

大玉すももの高品質生産のためには、人工授粉や笠かけもしくは雨よけの設置が必要で、他のすももと比べ栽培管理に多くの労力を必要とします。平棚栽培は、ほとんどの作業が地上からでき、省力化が期待できる栽培方法です。

4 ぶどう部分雨よけ栽培

収穫時期が5日～7日早まり、開花時期の不良天候による花振るいを防ぐ効果が高く、病害の発生を少なくするので栽培の安定化を図ることができます。また、1g程度の果粒肥大、果紛（ブルーム）ののりもいので品質向上につながります。



5 ジョイント栽培

プラムの主枝先端部を隣のプラムの樹に接ぎ木して、連続的に連結させた直線状の単純な樹形です。樹を形成する中心的となる太い枝が早期にでき、作業の移動が直線的になるので、作業時間の短縮、早期から収量をあげることができます。

新規就農者の5年目 農業実績

農業を職業として選択した農業者、新規就農者など農業に意欲的な皆さんの参考にしていただくため、須坂市、小布施町、高山村における主要な類型ごとのモデルを紹介します。

	営農類型	面積規模 (a)	品目構成 (a)	労働力(人)		年間収入 (千円)
				基幹	補助	経営体
A	ぶどう	70	シャインマスカット45 巨峰20 ピオーネ5	1	1	9,081
B	ぶどう	79	巨峰29 シャインマスカット25 ナガノパープル25	2	0.5	5,383
C	ぶどう	81	巨峰36 シャインマスカット35 ナガノパープル10	1	1	7,706
D	ぶどう	90	巨峰36 ナガノパープル28 シャインマスカット26	2	0	6,445
E	ぶどう	145	巨峰75 シャインマスカット70	2	2	10,280
F	醸造用ぶどう	300	シャルドネ120 メルロー60 カベルネ・ フラン40, ピノ・ノワール40 ソーヴィニヨ ン・ブラン30 カベルネ・ソーヴィニヨン10	2	1	9,500
G	ぶどう + りんご	39	シャインマスカット21 ナガノパープル8 ふじ10	1	1	8,926
H	ぶどう + プルーン	110	シャインマスカット80 巨峰10 プルーン20	2	0	13,144
I	りんご	110	ふじ60 シナノスイート23 つがる10 シナノゴールド10 秋映5 シナノドル チェ2	2	0	7,800
J	りんご + もも + 栗	97	ふじ50 秋映5 もも10 栗12	1	1	9,415
K	りんご + 水稲	105	ふじ40 つがる20 シナノスイート20 シナノゴールド5 王林5 水稲15	1	4	8,000

◎新規就農者褒賞者数

須高地区（須坂市、小布施町、高山村）では、平成24年度から里親研修生を積極的に受け入れています。2年間の里親研修を終えて就農した新規就農者は、平成25年から令和元年までに39名です。独立就農後、自身の栽培技術等のレベルや評価を知るために、りんご、ぶどうなどのコンクールに出品し高評価を得ています。

平成27年から令和2年までにコンクールで受賞した新規就農者数

年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
受賞者数	2名	2名	2名	5名	3名	2名

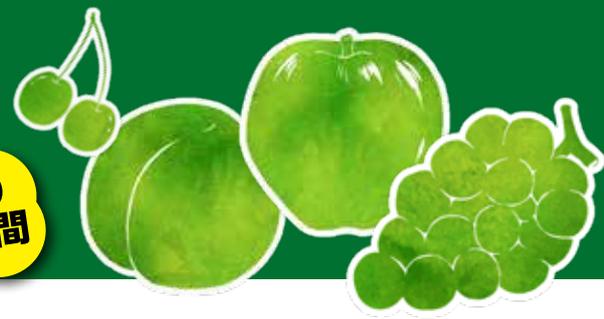
すこう 須高地域の主な農業実績

以下は、須高管内での農業経営の実績です。

	営農類型	面積規模 (a)	品目構成 (a)	労働力(人)		年間収入 (千円) 経営体
				基幹	補助	
農家 A	りんご+ぶどう(露地)	130	ふじ40 シャインマスカット20 巨峰有核50 ナガノパープル20	2.0	1.0	8,000
農家 B	りんご+ぶどう(露地)	150	ふじ70 つがる20 秋映20 シナノスイート20 巨峰有核20	2.0	2.0	9,000
農家 C	りんご+ぶどう+なし	110	ふじ30 つがる20 秋映20 南水20 巨峰無核15 他5	3.0	1.0	10,000
農家 D	ぶどう(露地)	94	巨峰有核50 ロザリオ6 シャインマスカット20 ナガノパープル18	2.0	1.0	10,000
農家 E	りんご+ぶどう(露地)	170	ふじ70 つがる15 秋映35 巨峰有核50	2.0	1.0	13,000
農家 F	りんご+ネクタリン	150	ふじ50 つがる45 秋映35 ネクタリン20	2.0	1.0	13,000
農家 G	ぶどう(露地・ハウス)+りんご	108	巨峰無核20 ナガノパープル シャインマスカット10 ふじ23 巨峰有核(ハウス)35	2.0	2.0	14,000
農家 H	ぶどう(露地)+一部冷蔵	100	露地巨峰無核60 シャインマスカット30 ナガノパープル10	3.0	1.0	15,000
農家 I	ぶどう(露地・ハウス)	84	巨峰有核(ハウス)40 露地巨峰有核31 シャインマスカット7 ナガノパープル6	2.0	1.0	20,000
農家 J	ぶどう(露地・ハウス)+りんご+プルーン	145	シャインマスカット30 ふじ40 露地巨峰有核20 その他10 シャインマスカット(ハウス)35 アーリーリバー他10	3.0	2.0	30,000

す こう 須高農業青年クラブ

地域の
若い仲間



活動概要

須高農業青年クラブは、須坂市、小布施町、高山村に在住する若手農業者で構成され、現在24名で活動しています。会員が自発的に活動内容を出し合い、学習活動や研究活動を行っています。

活動内容

①プロジェクト活動

会員自らで経営や栽培上の問題をテーマに課題解決に向けた調査研究を行っています。ぶどうやりんごなど、それぞれが経営する中での課題について深掘りし、考え実践する機会となっています。

②先進地視察研修

会員が関心のある栽培方法や新品種などについて学び習得することを目的に、県内外の農業先進地へ視察研修を行っています。令和元年度は山梨県笛吹市へ視察を行い、品質動向の他に観光農園の経営についても学ぶことができました。

③スキルアップセミナー

毎年、会員が学びたいことに関してセミナーを行っており、これまでに土づくりや病害虫などについて行いましたが、令和元年度はスマート農業の果樹園への導入についての学習を行いました。

④県若人のつどい

全県から青年クラブ員がつどい、プロジェクト発表の成果を交換して互いに刺激を受け、自らの経営に活かしています。



お問い合わせ先 長野農業農村支援センター

TEL 026-234-9535 FAX 026-235-8393 E-mail nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

す こう JAながの須高青年部

地域の
若い仲間



概要

〈盟友数〉 82名 (平均年齢 37歳)

組織と活動内容

〈専門部〉 ◎農政部 ◎組織部 ◎教養部

〈タスクフォースチーム〉

タスクフォースチームとは…特別な任務を遂行するチームのこと。JAながの須高青年部では、直面する様々な問題や、課題に向けてチームを結成し、解決・改善に向けて積極的に取り組んでいます。代表的な活動をご紹介します。



チーム名	活動内容	備考
リングTF	マロンなアップル(黄色いふじ)の開発、販売 食育活動(小学生とオリジナル文字リングの作成)	マロンなアップルは、高値5kg6,000円で市場取引

お問い合わせ先 JAながの須高 営農センター 営農課

須坂市大字小島 547-7 TEL 026-245-0153 FAX 026-245-1003
E-mail sko-enc@ngn.nn-ja.or.jp

きじまるクラブ

地域の
若い仲間



きじまるクラブとは

須坂市内の農業研修生および就農して5年以内の新規就農者の集まりで、研修会や交流会を開催しています。他県からの移住し、就農している者も多く、親交を深めることができる場になっています。現在は30名を超える会員で活動しています。

由来

きじまるの「きじ」は日本の国鳥「キジ」です。かつては一万円札にも描かれていました。目標は大きく「日本の農業を支える」「稼ぐ農業をする」という願いを込めて、キジにちなんで『きじまる』と名付けました。

主な活動

- ◎農業技術に係る研修 ……せん定、病虫害、最新の品種などの勉強会や簿記勉強会、Facebookの勉強会などを行っています。
- ◎先進農家との交流、視察 ……先輩農家を招いての講演会や園地の視察、農業委員との意見交換会
- ◎仲間作り、地域との交流など ……ごみ拾いやイベントへの参加

お問い合わせ先

須坂市役所 農林課

TEL 026-248-9004 FAX 026-246-5667 E-mail s-nourin@city.suzaka.nagano.jp

ホームページ <https://kizimaru.com/>

こう さく かい 幸 作 会

地域の
若い仲間



概要

幸作会は、町内で農業を志す者同士の仲間づくり、情報交換を目的として設立した会です。現在、会員数は、10名程度で、そのほとんどが町外出身者です。しかし、ここ最近では、町内の農業後継者も会に加わるようになってきており、町内外の若手農家が集う新たな場になってきています。

また、本会では、新規就農生同士だけではなく、町の人との交流も積極的に行っています。地元の農業委員会の皆様を始めとし、町内農家の先輩方も交流しています。その結果、とてもいい状態の農地を貸してくれる方が見つかるなど、地域とのつながりをより強いものにすることができました。

小布施町の魅力は、なんといってもそこに暮らす人々です。幸作会は、農業のおもしろさだけでなく、小布施町に暮らす楽しさを感じていただけの会です。

お問い合わせ先

小布施町役場 産業振興課 農業振興係

TEL 026-214-9104 FAX 026-247-3113 E-mail sangyou@town.obuse.nagano.jp

高山村地球クラブ

地域の
若い仲間

概要

人と自然にやさしい環境保全型農業を推進する高山村の農業を継続しようとする青年の農業者団体「高山村地球クラブ」は、会員相互の親睦を図り豊かにして、明るい農業及び生活を築くことを目的に、農業知識の習得や研究活動等の他ボランティア活動も行っています。

会員は、りんご・ぶどう・ワイン用ぶどうなどの果樹栽培農家をはじめ、水稻栽培農家や畜産農家などさまざまで、栽培技術などの情報交換の場にもなっています。会員数38名(R2現在)、年会費4,000円。

主な活動内容

■視察研修・学習会

知識の習得や研究活動として、県内外の農業先進地への視察研修や学習会を行っています。過去には、「りんごの新品種栽培を行う農家」への視察や、「農作物の消毒用車両(スピードスプレー)を製造する企業」への視察、「確定申告に係る農業所得の収支のつくり方」、「農地に関わる基礎知識」などの学習会を行いました。

■農業技術情報交換の場(園地交流会)

毎年、春と秋に会員の園地で、農作物の栽培方法や園地で工夫していることなど農業技術情報の交換を行っています。

■ボランティア活動

毎年、地域貢献ボランティア活動として、村内の沿道等の草刈りを行っています。



お問い合わせ先

高山村役場 産業振興課 農政係

TEL 026-214-9268 FAX 026-248-0066 E-mail sangyou@vill.takayama.nagano.jp



お問い合わせ先一覧

長野農業農村支援センター	TEL 026-234-9535	FAX 026-235-8393	✉ nagano-aec@pref.nagano.lg.jp
須坂市農林課農政係	TEL 026-248-9004	FAX 026-246-5667	✉ s-nourin@city.suzaka.nagano.jp
小布施町産業振興課農業振興係	TEL 026-214-9104	FAX 026-247-3113	✉ sangyou@town.obuse.nagano.jp
高山村産業振興課農政係	TEL 026-214-9268	FAX 026-248-0066	✉ sangyou@vill.takayama.nagano.jp
JAながの須高営農センター営農課	TEL 026-245-0153	FAX 026-245-1003	✉ sko-enc@ngn.nn-ja.or.jp

